株主メモ

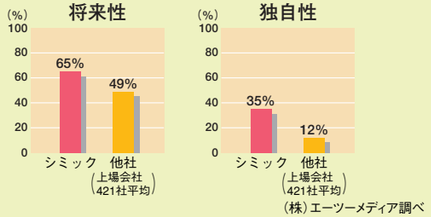
事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月
基準日	毎年9月30日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
公告方法	電子公告 http://www.cmic.co.jp/ ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先	電話 0120-288-324（フリーダイヤル）
同取次所	みずほ信託銀行株式会社　全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店

株主アンケートのご報告

第22期事業報告書および当社ホームページより実施いたしましたアンケート調査において、株主の皆様には貴重なご意見を賜り誠にありがとうございました。今後も皆様のご期待に沿えるよう企業努力を続けてまいります。

株式購入理由（複数回答）

※今回のご報告では、平均的数値との比較のため、同時期に行った他社（上場会社421社平均）のアンケート結果もご紹介しております。



（株）エーツーメディア調べ

シミック株式会社

〒141-0031 東京都品川区西五反田 7-10-4 金剛ビル
Tel 03-5745-7070（代）　Fax 03-5745-7077
http://www.cmic.co.jp/

株主様向けアンケート

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

下記ＵＲＬにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

http://www.e-kabunushi.com
アクセスコード　**2309**

いいかぶ　検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。

空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。（タイトル、本文は無記入）
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本中間事業報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間（2007年8月20日まで）です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます

e-株主リサーチ

※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。（株式会社エーツーメディアについての詳細http://www.a2media.co.jp）※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
TEL：03-5777-3900　MAIL：info@e-kabunushi.com

Printed with Soy Ink.
Printed on recycled paper.

証券コード：2309　東証一部

CMIC
INTERIM REPORT 2007

シミックレポート

第23期 中間事業報告書

2006年10月1日～2007年3月31日

BUSINESS DOMAINS
事業領域

CMIC
PHARMACEUTICAL VALUE CREATOR

シミックグループは、主に医薬品の研究開発から製造、マーケティング・販売まで、製薬企業をフルサポートする体制を確立し、Pharmaceutical Value Creator（ファーマシューティカル・バリュー・クリエイター）として製薬企業などの価値最大化に取り組んでいます。

CRO CONTRACT RESEARCH ORGANIZATION

医薬品開発支援
主に製薬企業などに対し臨床試験等に関する専門的なサービスを提供する事業

CMO CONTRACT MANUFACTURING ORGANIZATION

医薬品製造支援
製薬企業などから医薬品等の製造を受託する事業

CSO CONTRACT SALES ORGANIZATION

医薬品のマーケティング・販売支援
販促資材の企画・制作、MR派遣など、医薬品のマーケティング・販売を支援する事業

●医薬品開発のプロセス

新薬は、長い研究開発期間をかけて成分の有効性と安全性を確認された後に、国の承認を受けて、ようやく患者さんのもとに届けられます。また、発売された後も一定の期間、有効性と安全性について確認することが、開発した製薬企業に義務付けられています。
シミックグループは臨床試験を中心に、医薬品製造支援から販売支援まで、様々な業務を支援しています。
さらに医薬品だけではなく、医療機器や診断薬、トクホ（特定保健用食品）などに関しても業務を提供しています。

基礎研究	前臨床試験	臨床試験（治験）	申請・承認	販売・製造販売後調査
（期間）2〜3年	3〜5年	3〜7年	1〜2年	4〜10年

TO OUR SHAREHOLDERS
株主の皆様へ

代表取締役会長兼社長／CEO
中村　和男

シミックグループ、グローバルへ躍進

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申しあげます。また、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

当中間期も増収増益を継続

近年における医薬品業界は、医療費抑制に向けた医療制度改革が推進されるなか、欧米では標準的に用いられている医薬品が日本では使用できない「ドラッグラグ」と呼ばれる現象が問題視されています。この問題を改善するためには、国内の臨床試験（治験）の迅速化、効率化が欠かせないとの認識が高まると同時に、ジェネリック薬品の増大は新薬開発をますます活発化させ、製薬企業は積極的に外務委託する傾向を強めています。

このような事業環境のもと、国内外の顧客からの新薬開発支援業務受託が拡大し、また前期子会社化したシミック・エスエス・CMO㈱が業績に加わった結果、当中間期の連結売上高は10,741百万円（前年同期比22.4%増）と概ね計画どおり推移しました。また採算の良い案件の当中間期売上計上の一方、増員計画が遅れたこともあり、経常利益は1,141百万円（同30.6%増）、中間純利益は704百万円（同83.2%増）と期初計画を大幅に上回りました。通期の見通しは、下期CRO事業を中心に積極的な増員を予定しているため、売上高22,000百万円（前期比25.3%増）、経常利益1,810百万円（同12.2%増）、当期純利益1,010百万円（同0.6%増）を見込んでいます。

PVC（Pharmaceutical Value Creator）としてのシミックグループ

当社グループは、製薬企業の研究開発、製造、販売までのバリューチェーンを支援する事業モデルPVCを構築し、お客様企業の価値向上に貢献する取り組みを行っています。当中間期においては、国際化を更に推進するためにシミック アジア パシフィックを設立、シンガポール・台湾に新たな拠点を開設し、増加が見込まれるアジアン・スタディ（日本を含むアジアでの共同治験）に対応する体制を強化しました。また、治験の国際化に伴い注目が集まっているEDCシステム*について、お客様のニーズに合致したサービスを提供できるよう専門部署を設置するなど組織体制を強化し、グローバル展開に向け更なる飛躍に努めました。

今後も製薬企業をはじめとするお客様のより良きパートナーとなるべく、専門性を活かした事業を展開してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

*Electronic Data Capture：インターネットを利用し、電子的に臨床試験データを収集するシステム

PRESIDENT PRESENTATION
社長プレゼンテーション

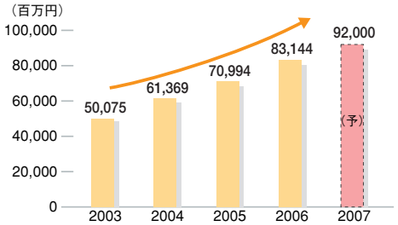
シミックのビジネスモデル「PVC」

当社は、1992年に現在の事業の柱であるCRO事業（医薬品開発支援）を日本で初めて開始しました。現在ではPVC（Pharmaceutical Value Creator）として、医薬品等の研究開発に限らず、製造、マーケティング・販売も含めた総合的な支援事業を展開しています。医薬品市場の成長の波にも柔軟に対応できるPVCモデルは、CRO（医薬品開発支援）、CMO（医薬品製造支援）、CSO（医薬品のマーケティング・販売支援）の各事業の相互連携による相乗効果を発揮させ、今後も順調に成長していくものと確信しています。

CRO事業の事業環境

医薬品の開発には、10年以上におよぶ年月、数百億円の費用・労力を要すると言われています。医薬品業界において国際的な競争が激化しているなか、こうした開発にかかる時間と労力を軽減するため、CROへの外部委託を積極化させています。このような状況のもと、CRO業界は引き続き順調に市場を拡大しています。当社は、このようなニーズに対応できるよう積極的な人員の確保に努め、製薬企業をはじめとした多くのお客様のより良きパートナーとして、医薬品等の開発を着実に遂行してまいります。

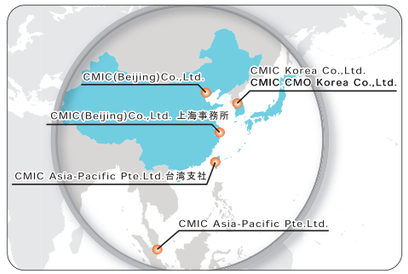
● 日本CRO協会会員の総売上高の推移



出典：日本CRO協会
注1）2006年及び2007年は会員38社、2005年は会員34社、2004年及び2003年は会員31社の集計値です。
注2）2003年は医薬品、医療機器等、食品、SMO/CRC及びその他の業務の売上の集計で、前臨床業務に係る売上は含まれておりません。

CRO事業における積極的なアジア展開

近年、国がドラッグラグ解消に向けてアジア人のデータ活用を容認する流れを背景に、アジアン・スタディ（日本を含むアジアでの共同治験）が活発化しています。当社は、韓国（シミックコリア）・中国（シミック北京：北京・上海）を中心に、これらのニーズに対応できる体制をいち早く整備してきました。当中間期においてはシミック アジア パシフィックを設立し、シンガポールおよび台湾に拠点を構えました。今後もグローバル戦略のための基盤作りとして、更なる拠点展開を計画しています。

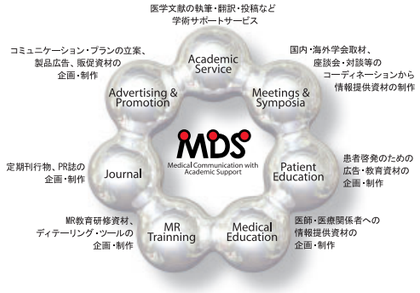


● シミック・エスエス・CMO（株）富山工場

CMO事業の進捗と今後の体制

CMO事業は、富山に工場を擁するシミック・エスエス・CMO㈱および韓国のシミックCMOコリア（2007年3月 海東エスエス製薬㈱より商号変更）において、医療用医薬品および一般用医薬品などの製造受託を展開しています。2007年9月に子会社化したシミック・エスエス・CMO㈱は当中間期より売上を計上し、連結売上高に大きく貢献しました。今後は、独自の製造・製剤技術を武器に、新規顧客・案件の獲得に向けた営業活動を強化していきます。また、治験薬の製造にも乗り出し、更なる製剤開発力の向上に努めます。

● エムディエス（株）のメディカル・コミュニケーション事業



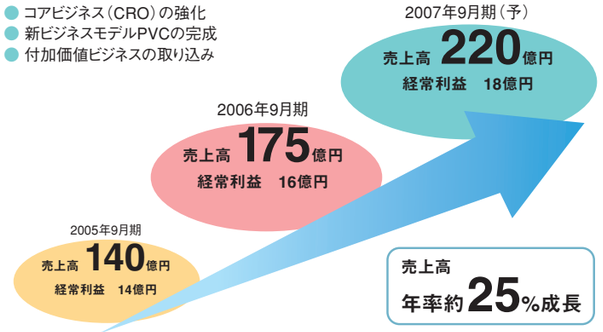
CSO事業強化のための新体制

CSO事業では、医薬品の販促資材の企画・制作、マーケティングコンサルティング、MR派遣（医薬情報担当者派遣）およびMR教育研修を行っています。また、エムディエス㈱におけるマーケティング支援業務は、当中間期も売上を伸ばし、連結業績に大きく貢献しています。2007年4月、㈱シミックCPのMR派遣（医薬情報担当者派遣）事業およびMR教育研修事業を、医薬品マーケティングコンサルティング事業を展開する㈱シミックMPSSに事業譲渡しました。グループの販売支援業務の集約を図り、相互連携を活かしたCSO事業の拡大・強化を目指します。

シミックグループの更なる成長に向けて

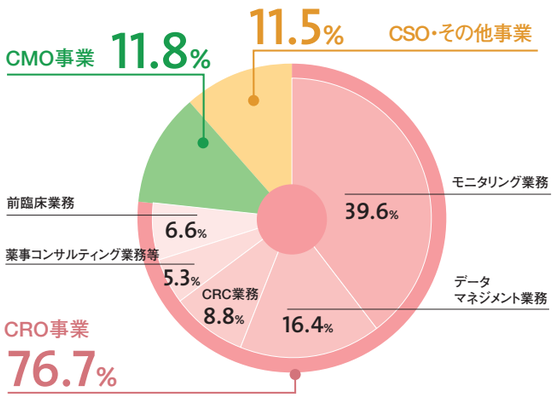
CRO事業においては、おかげさまで非常に多くの需要があるため、下半期は当中間期の採用の遅れを回復すべく大幅に人材を確保し、コアビジネスの強化に努めてまいります。同時に、付加価値ビジネスとして、IPD（知的財産開発）や新技術基盤への投資も積極的に推進していく所存です。

今後も、PVC として製薬企業などに対して付加価値を高めるサービスの提供に努め、CRO・CMO・CSO事業の一貫した完全受託体制を築いてまいります。

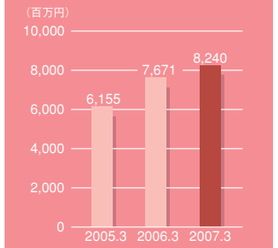


BUSINESS SEGMENT REPORT
事業セグメントレポート

●2007年9月期中間　売上高構成比



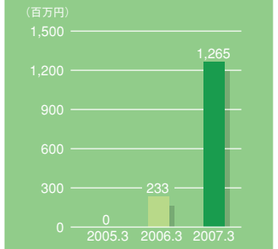
CRO
CONTRACT RESEARCH ORGANIZATION



市場拡大と連動し順調に推移

当中間期においては、従来のモニタリングを中心とした新薬開発支援業務の着実な遂行に加え、データマネジメント業務における環境省「そらプロジェクト」の疫学調査業務、また海外製薬企業に対するコンサルティング業務が寄与し、売上高8,240百万円（前年同期比7.4%増）と順調に推移しました。

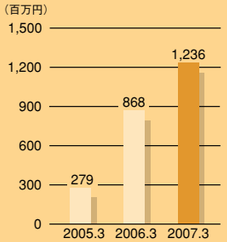
CMO
CONTRACT MANUFACTURING ORGANIZATION



当中間期よりシミック・エスエス・CMOの売上が加わり大幅増

2006年9月にエスエス製薬㈱より株式を取得し子会社化したシミック・エスエス・CMO㈱は、当中間期より売上計上し、業績に大きく貢献しました。売上高1,265百万円（前年同期比441.8%増）となり、連結売上高全体に対するCMO事業の比率が大幅に上昇しました。

CSO/その他
CONTRACT SALES ORGANIZATION / OTHERS

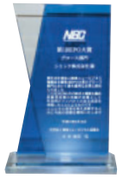


マーケティング支援業務・被験者募集業務などが好調に推移

MR派遣業務は徐々に売上を伸ばしています。また、エムディエス㈱におけるマーケティング支援業務、㈱ヘルスクリック（旧PCN㈱）における被験者募集業務の売上拡大により、売上高1,236百万円（前年同期比42.3%増）を達成しました。

TOPICS
トピックス

関東ニュービジネス協議会「第1回IPO大賞」受賞（グロース部門）



当社は2007年3月、社団法人 関東ニュービジネス協議会の「第1回IPO大賞」を受賞しました（グロース部門）。グロース部門は、株式上場後4年経過し、社会的評価が定着し日本経済活性化の牽引役となっている新たなビジネスモデルのベンチャー企業を中心に選出されています。今後も、CROの先駆け企業としての存在感を示しつつ、日本経済活性化の牽引役として成長してまいります。

統計解析ソフト「HALBAU7」発売

当社は、医学・看護学領域を中心に広範囲のデータ解析に用いられている統計解析ソフトHALBAUを全面改良し、新たに入出力の操作性を改善して使いやすさを増した「HALBAU７（はるぽう７）」を、2006年12月に発売しました。画面の指示に従って選択するだけで解析ができる容易な操作性と、基礎統計から多変量解析まで幅広い種類の統計解析に対応できるという特長があり、医学・看護学・薬学等の研究・調査に加え、大学などにおける統計教育の場など幅広い領域において利用されています。

「healthクリック」アンケート調査結果

子会社㈱ヘルスクリック（2007年4月 PCN㈱より商号変更）は、同社が運営する日本最大級の健康ポータルサイト「healthクリック」にて、一般消費者の皆様に「過活動膀胱に関する意識調査」および「健康に関する意識調査」を実施しました。過活動膀胱調査では、40歳以上の回答者（181人）の約8人に1人に過活動膀胱の疑いがあるにもかかわらず、「病気の内容まで知っている」のはわずか12%という結果となりました。（アンケートの詳細は「healthクリックhttp://www2.health.ne.jp/library/oab/index.html」に掲載中）「healthクリック」では今後も、健康を追求する一般消費者の皆様に正しい情報・知識を提供するため、ユーザの役に立つ幅広いコンテンツメニューを取り揃えてまいります。

アートリンク日米フォーラムに協賛

当社は、CSRの一環として「アートリンク日米フォーラム」（財団法人たんぽぽの家主催）に協賛しました。このフォーラムは、障害のある人とアーティストとがペアを組み共同制作に取り組むプロジェクト「アートリンク」をテーマとしています。2007年4月25日京都国立近代美術館講堂（京都セッション）、2007年4月28日東京都現代美術館講堂（東京セッション）にて行われ、両会場あわせて約200名の福祉・教育・芸術分野の方々が参加されました。当社は、今後も企業としての社会的貢献活動に取り組んでまいります。

FINANCIAL STATEMENTS
連結財務諸表

売上高 前年同期比22.4%UP↑

国内外から新薬開発支援業務を順調に受託したこと、また2006年9月に医薬品製造支援会社シミック・エスエス・CMO㈱を子会社化したこと等により、対前年同期より1,967百万円増加しました。

営業利益　前年同期比41.5%UP↑

増員計画の遅れから人件費が計画を下回ったことなどにより、対前年同期より340百万円増加しました。

中間純利益　前年同期比83.2%UP↑

子会社（株式会社シミックアカデミックデータセンター）吸収合併による税金費用減少等により、対前年同期より320百万円増加しました。

2006年5月1日施行の会社法により、「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。これは、貸借対照表上、資産性を持つものを「資産の部」、負債性を持つものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債との差額として「純資産の部」に記載するものです。これにより、会社の支払い能力などの財政状態を、より適切に表示することが可能となります。

中間連結貸借対照表（要旨）

（単位：千円）

科　目	当中間期 2007年3月31日現在	前中間期 2006年3月31日現在	前　期 2006年9月30日現在
資産の部			
流動資産合計	10,595,285	8,586,125	10,027,883
固定資産			
有形固定資産	3,939,637	1,379,991	3,981,461
無形固定資産	763,576	1,037,908	808,615
投資その他の資産	1,712,790	1,409,982	1,555,959
固定資産合計	6,416,005	3,827,882	6,346,036
資産合計	17,011,290	12,414,007	16,373,919
負債の部			
流動負債合計	3,736,257	2,947,454	3,488,596
固定負債合計	2,744,068	795,710	3,017,090
負債合計	6,480,326	3,743,164	6,505,687
少数株主持分			
少数株主持分	—	86,498	—
資本の部			
資本金	—	3,084,750	—
資本剰余金	—	3,329,990	—
利益剰余金	—	2,115,709	—
為替換算調整勘定	—	53,895	—
資本合計	—	8,584,344	—
負債、少数株主持分及び資本合計	—	12,414,007	—
純資産の部			
株主資本	9,697,103	—	9,085,767
評価・換算差額等	70,966	—	74,511
少数株主持分	762,893	—	707,953
純資産合計	10,530,963	—	9,868,232
負債・純資産合計	17,011,290	—	16,373,919

中間連結損益計算書（要旨）

（単位：千円）

科　目	当中間期 2006年10月1日から 2007年3月31日まで	前中間期 2005年10月1日から 2006年3月31日まで	前　期 2005年10月1日から 2006年9月30日まで
売上高	10,741,940	8,773,957	17,556,918
売上原価	7,601,573	6,155,696	12,305,772
売上総利益	3,140,367	2,618,261	5,251,146
販売費及び一般管理費	1,977,971	1,796,754	3,698,087
営業利益	1,162,396	821,507	1,553,058
営業外収益	70,075	81,828	138,631
営業外費用	91,154	29,597	79,040
経常利益	1,141,318	873,738	1,612,650
特別利益	3,473	409	386,307
特別損失	34,612	27,514	27,887
税金等調整前中間（当期）純利益	1,110,179	846,632	1,971,071
法人税、住民税及び事業税	393,502	474,409	1,026,306
法人税等調整額	△ 35,075	△ 26,209	△ 66,322
少数株主利益	47,109	13,826	6,799
中間（当期）純利益	704,643	384,605	1,004,288

中間連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：千円）

科　目	当中間期 2006年10月1日から 2007年3月31日まで	前中間期 2005年10月1日から 2006年3月31日まで	前　期 2005年10月1日から 2006年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,670,746	41,385	392,920
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 316,211	△ 434,556	△ 2,373,023
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 285,862	340,342	2,842,589
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,412	14,317	18,262
現金及び現金同等物の増減額（△は減少額）	1,070,084	△ 38,510	880,748
現金及び現金同等物の期首残高	4,219,756	3,339,007	3,339,007
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	5,289,840	3,300,497	4,219,756

2006年5月1日施行の会社法により、「連結剰余金計算書」が廃止され、「連結株主資本等変動計算書」が新設されました。これは、貸借対照表の純資産の部の中で、主として株主の皆様に帰属する株主資本について、その1会計期間における変動事由と変動額を、連結ベースでご報告するために作成する計算書類です。

中間連結株主資本等変動計算書（要旨）

（単位：千円）

当中間期（2006年10月1日から 2007年3月31日まで）	株主資本				評価・換算差額等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計			
2006年9月30日　残高	3,087,750	3,332,990	2,665,027	9,085,767	74,511	707,953	9,868,232
中間連結会計期間中の変動額							
剰余金の配当	—	—	△93,307	△93,307	—	—	△93,307
中間純利益	—	—	704,643	704,643	—	—	704,643
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額（純額）	—	—	—	—	△3,545	54,940	51,395
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	611,335	611,335	△3,545	54,940	662,731
2007年3月31日　残高	3,087,750	3,332,990	3,276,363	9,697,103	70,966	762,893	10,530,963

FINANCIAL STATEMENTS
単独財務諸表

中間貸借対照表（要旨）

（単位：千円）

科　目	当中間期 2007年3月31日現在	前中間期 2006年3月31日現在	前期 2006年9月30日現在
資産の部			
流動資産	7,132,864	6,270,957	6,769,875
固定資産	6,295,647	4,430,371	6,244,523
資産合計	13,428,512	10,701,328	13,014,398
負債の部			
流動負債	2,449,221	1,887,265	2,160,990
固定負債	2,081,221	265,434	2,293,629
負債合計	4,530,443	2,152,700	4,454,619
資本の部			
資本金	—	3,084,750	—
資本剰余金	—	3,329,990	—
利益剰余金	—	2,133,888	—
資本合計	—	8,548,628	—
負債・資本合計	—	10,701,328	—
純資産の部			
株主資本	8,898,068	—	8,559,778
純資産合計	8,898,068	—	8,559,778
負債・純資産合計	13,428,512	—	13,014,398

中間損益計算書（要旨）

（単位：千円）

科　目	当中間期 2006年10月1日から 2007年3月31日まで	前中間期 2005年10月1日から 2006年3月31日まで	前期 2005年10月1日から 2006年9月30日まで
売上高	5,572,932	5,143,239	10,112,806
売上原価	3,860,196	3,686,328	7,055,530
売上総利益	1,712,736	1,456,911	3,057,275
販売費及び一般管理費	1,139,748	961,844	2,002,134
営業利益	572,988	495,066	1,055,140
営業外収益	96,836	106,505	139,733
営業外費用	85,060	13,557	23,041
経常利益	584,763	588,014	1,171,833
特別利益	—	—	246,600
特別損失	41,661	1,642	358,693
税引前中間（当期）純利益	543,101	586,371	1,059,739
法人税、住民税及び事業税	146,647	290,400	723,124
法人税等調整額	△ 35,143	△ 30,147	△ 65,017
中間（当期）純利益	431,597	326,118	401,632
前期繰越利益	—	400,069	—
中間未処分利益	—	726,188	—

中間株主資本等変動計算書（要旨）

（単位：千円）

当中間期（2006年10月1日から 2007年3月31日まで）	株主資本				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	
2006年9月30日　残高	3,087,750	3,332,990	2,139,038	8,559,778	8,559,778
中間会計期間中の変動額					
剰余金の配当	—	—	△93,307	△93,307	△93,307
別途積立金	—	—	—	—	—
中間純利益	—	—	431,597	431,597	431,597
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額（純額）	—	—	—	—	—
中間会計期間中の変動額合計	—	—	338,289	338,289	338,289
2007年3月31日　残高	3,087,750	3,332,990	2,477,328	8,898,068	8,898,068

CORPORATE DATA&STOCK INFORMATION
会社概要・株式の概況

会社概要（2007年3月31日現在）

商　　号　シミック株式会社
設　　立　1985年
資 本 金　3,087,750千円
本社所在地　〒141-0031 東京都品川区西五反田7-10-4　金剛ビル
従業員数　1,787名（連結）
事 業 所　北海道支社　東北支社　北陸支社
名古屋支社　大阪支社　中国支社
九州支社

グループ会社（連結子会社）※2007年4月1日現在
（株）シミックBS　（株）シミックCP
シミックCRC（株）　（株）シミックMPSS
エムディエス（株）　（株）ヘルスクリック
シミック・エスエス・CMO（株）　（株）応用医学研究所
CMIC CMO Korea Co., Ltd.　CMIC Korea Co., Ltd.
CMIC（Beijing）Co., Ltd.　CMIC Asia-Pacific, Pte. Ltd.
CMIC BRASIL PESQUISAS CLÍNICAS LTDA.

持分法適用会社　富士フイルム・シミック　ヘルスケア（株）

役　員（2007年3月31日現在）

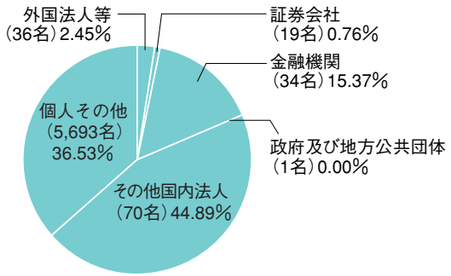
代表取締役会長兼社長	中村和男
代表取締役副社長	中村紘
取締役副社長	市川宏司
取締役副社長	中村圭子
取締役	中村宣雄
取締役	小作寛
取締役	堀井宏晃
取締役	望月渉
取締役（社外）	原護
監査役（常勤）	中野信介
監査役（非常勤）	酒井繁
監査役（非常勤）	種房俊二
監査役（非常勤）	古庄隆史

株式の状況（2007年3月31日現在）

発行可能株式総数 ……2,300,000株
発行済株式総数 ……758,600株
株 主 数 ……5,853名

大株主

株主名	持株数（株）	持株比率（%）
株式会社アルテミス	318,410	41.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	79,680	10.5
中村和男	62,020	8.1
みずほキャピタル株式会社	17,600	2.3
シミック従業員持株会	13,880	1.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	8,270	1.0
中村圭子	7,120	0.9
ﾉｰｻﾞﾝ ﾄﾗｽﾄ ｶﾝﾊﾟﾆｰ（ｴｲﾌﾞｲｴﾌｼｰ）ｽｳｪｰﾃﾞﾝ ｸﾗｲｱﾝﾂ	7,025	0.9
市川宏司	6,000	0.7
野村信託銀行株式会社	5,948	0.7

（注）1. 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点以下2位を切り捨てております。
2. 上記株主の所有株式数のうち、信託業務にかかる株式数は次のとおりであります。
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社　79,680株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社　8,270株
野村信託銀行株式会社　5,948株

所有者別の構成比率（株式数比率）